

【新川地区】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和7年10月27日（月） 19時～

ところ へきなん福祉センターあいくる

出席者 25人

Q1 【財政非常事態宣言・要望】

ごみ袋の有料化をしてもいいと思っているが納得して支払いたいため、市長、市議の給料20パーセント以上カット、ボーナス、退職金なし、市議の定数5名以上削減、それを実施した上で有料化や、無料券をなくすのであれば市民も納得と思う。金額ではなく、市長や市議に先頭に立ってもらわないと市民は納得できない。市議にあたっては会派の意見ではなく、個人の意見として定数削減に賛成か反対かの意見を表に出してほしい。

A 市長

今この場で結論を出すことは難しいため、受け止めさせていただく。ただ、市政については持続可能でなければならない。

Q2-1 【広報】

碧南市にはイベントも公共施設も多くあり住みやすいと思うが、施設を活用している人がいない。イベントや施設の情報を集めようにも情報源がばらばらでわかりづらいため、市内のイベントや情報をまとめて発信できるような広報活動を行ってほしい。

A 総務部長

情報はホームページやSNSでの発信をしているが、自分から情報を取りにいかないと調べられない。最近はLINEで必要な情報を受け取れるプッシュ方式での配信に力をいれているが、友だち登録が近隣市に比べてなかなか進んでいない。今後LINEクーポンを始め、友だち登録を増やしていき情報発信を拡充していきたい。美術館、無我苑なども積極的な発信をがんばっている。無我苑で利用者が増えたという成功体験もあるため、他の施設も力を入れて全体的にやっていけるように今後努力していきたい。

A 市長

どうしたらみんな来れるか何か案があれば教えてもらえるとうれしい。

Q2-2 【広報】

そもそも碧南市のLINEアカウントがあることを知らない人がほとんどだと思う。学校にチラシを配ることやtetoruを活用すると広められると思う。また、紙との併用をすると広められると思う。

Q 3 【市民病院の経営・財政】

碧海5市の中で資源を有効利用する施策が、病院の状況を解決する一番大きな筋道ではないか。

また、市民1人あたりの支出が他市に比べて高い水準とのことだが、今年の予算のなかで事業を棚卸して、何割削減しないといけないのか、それによって経費にいくら余剰ができ、財政調整基金がいくらになるか、もともとの60億に戻すためのシナリオを描かないと20億でいいということではないと思う。血のでるような改革をしないと収益の改善にはつながらない。協力するため徹底してやることを切に願う。

A 市民病院長

これまでと同じような病院の在り方では今後やっていけない。以前と比べて、患者のかかり方、かかる人、人口のバランスも変化してきた。これからは何を削減するかではなく、何を残すかが中心になっていく。現在、月に2回市と病院で今後の在り方について協議している。可能な限り早く結論を出していきたい。その時には市民の皆様にもしっかり説明していく。一部の患者には負担をいただくこともあるかもしれないが、市民を守ることは市民病院の重要な役割である。急な感染症の拠点や、災害時には病院の働きが必要になる。本当に病院が必要なのか、なくてもいいのか含めて今後どうあるべき姿にしていくか議論を進め、しっかり考えていきたい。

A 企画財政部長

市内には公共施設が多いため、そこで働く人員も多くなっている状況である。そこに維持管理費や修繕費が嵩んでいる。そこで、同一目的の施設を統廃合していくという経緯である。施設の10%削減というと総論賛成いただくが、具体的にどこの施設かあげると、その利用者は反対されるという現状がある。ただ、やっていかないと財政の危機は乗り越えられない。これまでのように右肩上がりの時代は施設を増やすのは簡単だったが、1つ施設なくすというのは大変な労力が必要。丁寧に理解を得ながら協力いただいて進めていきたい。

A 市長

今は、これまでの時代から変わっていく過渡期である。今後削るだけでなく生み出すまち、協力して一緒に作っていくまちを作りたい。

Q 4 【財政対策】

市民1人あたりの経費について、経費をいくらにしたらどれくらいのサービスができるか分かるといい。サービスが低下するところまでは経費削減してほしくない。無駄はないか棚卸をして、今のサービスをどこまで下げて経費をどう削減していくのかといった具体的な説明も今後必要になってくると感じる。また、1つの策として、クリーンセンターの費用を見直してもいいのではないか。

A 企画財政部長

近隣他市がどのような水準でその事業を行っているか徹底的に比較して、突出しているものは抑えていくことをあらゆる分野で行う。また、碧南市が独自で行っている事業については必要性を検証していく。施設だけでなくソフト面に対しても近隣他市と比較することで碧南市の立ち位置を見直して削減できるところは協力いただきながら実行していく。

A 市長

これまで無料だったものにお金がかかるのはどういうことかと思う気持ちも理解できる。少しでもお金を出すことで大切に思う気持ちも出てくると思う。公約の中に無償化を掲げるものもあるが、過剰なサービスをしたいのではなく、持続可能な碧南にするために今後を担う世代の支援を厚くしたい。ごみ袋の有料化も、ごみの排出量が減らないため、ごみの削減、CO2排出の削減を図るための施策である。

Q 5 【市政功労者】

市政功労者について、市内在住だが国や県での功績がある人も対象になるのか。条例と運用が異なっていないか。条例と運用に食い違いがあるならば見直し修正いただきたい。

A 副市長長

警察や、郵便局、消防などでの功績は広域的に活動をされており、直接的な市政功労という形では目には見えないかもしれないが、過去の経緯として叙勲を受けられた人は表彰させていただいている。市の理解として、広域的に働いているということは、大きな観点で碧南市に貢献いただいているということで表彰している。

Q 6 【財政】

民生費、土木費の歳出については、他市と比較し水準が高いことはないという認識で良いか？

A 企画財政部長

今日配布した資料は令和5年度の経費を記載しているが、近年の物価高騰への対策で、給付金等国からの助成金があると、予算規模は大きくなり民生費の割合も大きくなる。国の事業であれば全国一律のため他市でも同じような状況だと思われる。また、大規模な工事があればその年の建設費の割合が多くなるということもあるため、今日の配布資料が全てということではなく、話し合いのきっかけづくりということで考えてもらえればと思う。

A 福祉部長

民生費について、20年前に比べて約2倍になっている。総人口に変化はないが後期高齢者の人口が増えている。結果として、医療費や介護保険費が増加、少子高齢化対策として子育てに関する経費も増えているため昔と比べて民生費は増えている。

Q 7 【くるくるバス】

くるくるバスの最寄りのバス停は3時間に1本で利用できる場面がなく利用しづらい。バスを見ても利用している人は少ないため、免許返納で必要な人もいるとは思いますが、そのくらいの頻度であればなくしてもいいのではないかと。

A 経済環境部長

くるくるバスのみで市内全域をカバーする交通手段としては考えておらず、電車やタクシー等も含め、碧南市全体の公共交通計画というものがある中で、それぞれが補完し合って移動手段を成り立たせるという考えでくるくるバスを運行している。

Q 8 【財政非常事態宣言】

財政非常事態宣言について、同級生やその親にあまり知れ渡っていないと感じる。子どもでも知っておくべき状況だと思うため、学校への周知などをして、広い世代が碧南市政について考える機会を用意すると良い。

A 教育長

11月号の広報へきなんに掲載しており、まもなく各家庭に配布されるが、学校での紙の配布や碧南市政のことを学校で取り扱うことも、カリキュラムも踏まえた上で今後考えていきたい。

Q 9 【市政】

一般企業では、貯金が1円でも減ったり、赤字になれば幹部のボーナスは0、基本給もカットになるということを知っておいてもらいたい。また、施設廃止についての反対運動が起きた時には、この施設を残すといくら税金が増えるかといった具体的な話で説明をしてはどうか。

A 総務部長

給料カットの可能性も0ではないと考えているが、職員のモチベーションという点もあるため、そういったことも踏まえて今後検討していく部分だと考えている。

A 企画財政部長

この施設を維持すると市民1人あたりいくらかかっているかということも説明として伝える方法の1つとして参考にさせてもらいたい。

Q 10-1 【施策・議会】

国の交付金の活用方法はある程度国から指定されていると聞かすが、対象の制限はできるのか。市民の誰もが平等に恩恵を受けられる施策をとっていただきたい。

また、議会の状況は1週間くらいでインターネットにあがるが、6月議会の議事録がまだ掲載されていない。細かい部分を把握するためにも対応いただきたい。

A 企画財政部長

今回の国の交付金は物価高騰に対する支援であり、過去には低所得の方への給付金や、水道料金の基本料金の無料化に活用した。さらに波及効果が見込めるものとしてクーポン事業を実施する。給食費も原材料高で、保護者の負担をあげないと本当は赤字であるが、応援する意味で交付金を活用した。今後も交付金があれば、波及効果やターゲットをしっかりと検討していきたい。

A 議会事務局長

現在は、年4回ある議会のなかで次の議会が始まるまでに議事録を作成している。最近はAI等により文字起こしができるものもあるが、そのままだと誤字脱字や意味が伝わらない部分もたくさんあるため、まずは業者が文字起こしをして、職員が詳細にチェックしている。正確さと速さを両立した形をとって努めている。

Q 1 0 - 2 【議会の議事録】

議会の議事録は内容を咀嚼したり、手が入るようなものではなくそのままの内容のものだと感じるため、さっきのような理屈は通らないのではないかと。

A 議会事務局長

確かに内容を分かりやすくしたりするものではない。ただ業者から受け取ったテキストを職員が何回も聞き直して合っているか確認しているが、実際にはかなり違っており、議事録作成に時間がかかっている状況である。

Q 1 1 【市民病院】

様々な問題点を急に一気に言われても理解が難しい。資料を見ると病院のことがキーワードだと思うため、病院についてを第1弾として、みんなで徹底的に集中して議論、アイデアを出していくべきである。順番に実施せず他に手を付けても、不安だけがあおられて訳が分からなくなってしまう。今ある施設の削減や存続に関する議論は大人が引き受け、子どもたちには未来に向けて動いた方がいいのではないかと。

A 総務部長

的を絞って議論することが大切ということで、市長の対話する姿勢を大切にすることで、今年度はテーマを定めておしゃべり会を実施している。市民の方に理解いただき一緒になって考えていきたいと思っているため、こういった場でも意見をいただけるとありがたい。

A 市長

これまで、市民の皆様のためサービスを継続してきたが、正直なところ限界であった部分がある。だからこそ、情報をすべてオープンにすると決めた。これまで資金は十分にあるとされていたのに、なぜ急にこのような事態に陥ったのか。その原因を正しく理解した上で、市民の皆様と共に何ができるのか、行政として何をなすべきかを考えたい。今こそ碧南市を改革するチャンスであると考えている。本日来場された

方々も、心の中に何とかしたいという気持ちがあったのではないか。その思いを、他の市民の皆様にも伝えていただきたい。これまで語られてこなかった現状を知ってもらいたかった。今後は何かを生み出していく姿勢が重要であり、特に少子化問題は避けて通れない課題である。碧南市の少子高齢化は西三河でもトップクラスの速さで進んでおり、年間出生数が400人を下回るのではないかという強い危惧を抱いている。その背景には、未婚者の増加があり、高学歴の女性が市外へ流出し、独身男性が増加している。我々大人が子どもたちに対し、親として結婚や育児の素晴らしさを十分に伝えてこられたかという責任も感じている。この点についても、真剣に取り組まなければならない。ぜひ前向きな意見を出し合いたい。知恵を貸していただければ幸いである。

Q 1 2 【防災】

市から大型災害時の要支援者リストを受け取った。国からの指導ではそのリストを用いて個別避難計画を作成するとあるが、これまで検討してこなかった部分であるため、区単位で要支援者を応援している事例があれば教えてもらいたい。

A 福祉部長

個別避難計画については、努力義務ではあるが、令和8年度までに作成することが求められている。碧南市内では、川口地区や前浜地区において取り組みが進んでいる。詳しい内容については、今後改めて情報提供を行うため、参考にさせていただきたい。

【中央地区】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和7年11月12日（水） 19時～

ところ 中部公民館

出席者 30人

Q1 【公共施設】

公民館の利用時間について、今は午前、午後、夜間となっているのを1時間単位にしてほしい。そうすることで、利用方法の幅が広がる。また、他市の方の利用料金を2倍、3倍といった形にしてほしい。

A 教育部長

現在、利用時間の区分を変更する考えは持っていないが、料金等を検討していく中に盛り込んで、課題として挙げていきたい。

また、利用料金について、他市の方の利用により市民が利用できないという声も聞いているため、料金設定も検討していきたい。

Q2 【公共施設】

財政非常事態宣言の情報が、市民に広報で届けられたことが、本当に意味深いと感じる。広報には公共施設について軽く掲載されている。市民にとっては、公共施設の数や内容等より詳しく知りたいと感じるため、今後また広報が展開されていく中で記載されていくことを期待する。

A 企画財政部長

公共施設の10%削減という目標がある。いざ特定の施設を削減すると決めると、総論賛成だが、個別の話になるとこの施設は反対となる現実がある。老朽化や重複した施設についてはあえて直さないで、使い切って廃止することも考えなければならない。公共施設の10%削減は難しい問題だが、市民の皆様に丁寧に説明をし、様々な情報を提供しながら進めていきたい。

Q3-1 【財政】

財政非常事態宣言を出してからスマイルトークが開催されたが、いつから財源が底をつくことがわかっていたのか教えてほしい。

A 企画財政部長

非常事態宣言を出した一番大きな要素は、病院の経営が急速に悪化したため、5月頃に病院の経営状況や公共施設の老朽化・大規模改修などの問題が山積みになっていた。全てに対応するには財政的に難しいため、6月に全部課長を集め改善案、収入増、歳出削減の指示をした。

市民の皆様強いメッセージを発するため9月24日に宣言を出した。6月から9月の間には具体案について何回も幹部を集めて検討してきた。

Q3-2 【病院経営】

資料にあるように碧南市では「衛生費」「保健衛生費」と県内で1番で、予防接種や健康診断をやっていて、市民が健康だから財政が悪くなったのか。

A 市民病院 経営管理部長

市民の皆様が健康で病気や怪我に合わない状況が続き、患者が減れば収益は下がる。医事経営に経費がかかるため医業収益よりも医業費用が大きく、赤字が膨らんだ。

Q4-1 【市長の給与削減】

市長の給与を削減は考えているか。

A 市長

議会等の関係で明言はできないが気持ちの上では考えていることがある。

Q4-2 【議員定数】

2年ほど前に話が出ていたと思うが議員定数の削減は考えているか。

A 議会事務局長

最初30人から始まりで、28、26と減らし、平成19年に今の22人になった。定数削減については議員の中でも継続的に協議をしている。議員の数は市民の声を市政に届けるシステムのため、一概に削減すれば良いものではなく、検討を継続している状況である。

Q5-1 【財政非常事態宣言】

連絡委員として地区の意見をまとめたので3点確認したい。3年間の見通しで財源が枯渇すると資料に書いてあるが、3年前に今の状況はわからなかったのか。

A 企画財政部長

想定を上回る物価上昇、人件費の高騰がある。診療報酬が伸び悩む中、国で定められた診療報酬額以上の医薬品等の経費の上昇があった。一定の物価上昇は見込んでいたが、想定外の状況になっている。また、公共施設の老朽化も一因で、昨年はおおいパークの風呂の屋根の突発的な大規模改修があった。

Q5-2 【全国の財政難との比較】

想定外と繰り返されていたが、全国的に同じ状況の中、特に碧南市が悪い理由は何か。

A 企画財政部長

全国的に同じ状況だが、公立の病院を持っていない自治体においては病院に繰り出すお金が発生していない。加えて、碧南市には公共施設が多く、管理運営に必要な職員の人件費も負担増につながっている。

Q5-3 【人件費】

職員が多く人件費が高くなってはいるが解雇はできないため、しわ寄せは会計年度任用職員にいくのか。

A 総務部長

人件費を削る関係で公務員のボーナスを削れという話等はあるが、公務員の給与は国家公務員や民間の給与を元に算出している。また、条例で定められているため、下げるのにも時間がかかる。解雇も困難で正規職員もそうだが会計年度任用職員も簡単に解雇できない。

Q6 【財政調整基金】

20億円以上貯金を確保する目標だが、30年以内に到来する南海トラフなどの災害時に足りるのか。防災に力を入れてほしい。

A 企画財政部長

財政調整基金については議会等でもよく聞かれ、50億円は確保したいと回答してきた。3年でマイナス7億円になるものを20億円残す目標を掲げた。年に換算すると9億円と簡単に出てくるお金ではない。職員の共通認識として20億円と設定し、将来的に50億円は確保したい。

Q7 【市民負担の軽減】

説明にあった標準的な市民負担の見直しについて、負担が増えることを懸念している。年金暮らしで物価高で国全体の生活が苦しい状況。市民の負担ができるだけ軽くなるようにしてほしい。

A 総務部長

近隣と比較し標準レベルに近づけるのが今回の目的である。ゴミ袋が無料の自治体は県内で2カ所。都市計画税は碧南市は0.25%で近隣は0.3%、財政に余裕があった時に税率を下げた。下げたものを上げるのは難しいが、全体を見て検討している。

Q8 【緊急性財政対策】

今回の宣言については凄く、勇気を持って、やられてすごいことだと思う。無料サービスの有料化、サービスの低下など出てくると思っている。しかし、職員の給与の減

額によるモチベーションの低下、パフォーマンスの低下、サービスの低下はあっては困るので、考えて対策を進めていただきたい。

この宣言に対して具体的な策とスケジュールがいつ頃発表されるのか聞きたい。

A 企画財政部長

年が明けた1月下旬に令和10年度に20億残す目標の具体的な案の3か年計画を議会に報告する予定。合わせて市民の皆様にも広報、LINE等を使って周知していきたい。

Q9 【子育て政策】

こういう暗い話がある中で、子供たちのために何か対策を考えているか。

A 教育部長

子どもたちのために、学校の改修を計画的に進める予算をなんとか確保しようとしている。来年度の計画では小学校のトイレの改修を予定している。避難所にもなっている中学校の体育館にエアコンを設置したいと動いているが、予算の都合もあり、実現できればと進めている。

A こども健康部長

公立保育園については非常に老朽化が進んでいる。一方で幼稚園についてはお母様方が就労される関係で入園者が減ってきている。3歳未満児の就労要件が90時間から60時間に緩和され、3歳未満児を預ける方が増えている状況。一方で、財政的な問題もあり、公共施設の整理・統合の話を受け、南に位置する大浜幼稚園と築山保育園を統合し民間園を誘致し、令和10年度に開所する予定。民間園なので国や県の整備費の補助、運営費の補助もある。財政に寄与するため、粛々と進めていきたい。

Q10 【市長報酬・議員定数】

市HPで給与を公表しているが、市長の報酬が月額1,003,000円、類似団体では最大1,053,000円、最少は686,000円と報酬は標準より高い。また、議員定数は高浜市と比較し人口1人当たりの議員数が多い。「サービスを標準化する。」と言うのであればその2点も標準化するべきである。

A 市長

先ほど同様の質問があり、回答しているが、明言はできないができることはする所存である。

Q11 【碧南市の魅力】

ごみ袋が三年後に無料ではなくなり碧南市の魅力がなくなる、生活が厳しくなる。大手企業が出て行ってしまふかもしれない。碧南市の魅力を作らないといけない。外

国人に来てもらうため、投資してもらうために何か考えているか知りたい。

A 経済環境部長

ごみ袋の無料配布は県内で碧南市と東海市。碧南市では各世帯に80枚の無料配布をしており、町内会加入者は20枚多く配布している。また、6人以上の世帯やおむつを利用する世帯への追加配布も行っている。不平等なごみ袋の配布をしており、袋が余っている世帯と不足している世帯がある。不足している世帯ではごみの減量の努力をされていると思うが、焼却するごみの量は減っていない。環境保全の視点から、ごみの減量を考える中で有料化を始める。一人一人の意識が上がり、ごみが減量すれば処理費用も下がる。何にしても無料は魅力だが、県下の状況、ごみの減量の国の目標にも達していない状況から有料化へのご理解をいただきたい。

企業誘致については碧南市は水に囲まれているため、誘致するには埋め立てをするか農地を工業用地に転用するかの二択である。現在、西端の北部に誘致を進めており、操業開始が約4社、開発許可が約4社ある。

A 市長

2030年までのCO2排出削減の国の目標に反し碧南市は増加している。ごみの焼却も排出量の一部に含まれると思う。国の方針に合わせて削減は進めていかなくてはいけない。魅力的な話としては衣浦港のポートアイランドがある。

Q11-1 【碧南市の魅力】

碧南市の魅力として外国人の労働力や投資を誘致するにあたり、どのようなものがあるか。アジア競技大会は魅力的だと思うが経済的な魅力として何かないか。

A 建設部長

ポートアイランドは国等に事業をお願いするものだが、物流拠点を作る。大災害に備えた防災拠点として耐震性のある岸壁を作る。整備し橋が架かると港の物流拠点となり、市の魅力が高まると考えている。事業費の関係から事業化には至ってないが半田市、武豊町と国への要望を行っている。

Q11-2 【碧南市の魅力】

碧南市にある外国人グループの代表者に魅力を説明すればもっと外国からの投資が来ると思う。

Q12 【財政非常事態宣言】

財政非常事態宣言は令和10年度末に20億円を目標としているが、達成した場合は解除されるのか、いつするのか。

A 企画財政部長

今のところ令和10年度の目標を達成すれば解除を考えているが、令和10年に20億では足りないとなれば解除を延長する可能性もある。宣言の中、市民の皆様には近隣他市並みの負担をしてもらう。目標達成後にサービスを再開するものもあるとは

思うが、施設の修繕等もあるため、標準的な負担というところで多くのものは解除後も続くことになると思う。

Q12 【議会への要望】

何週間か前に中央駅で共産党の人が新聞を配布しており、財源はまだあるというようなことが書かれていた。市議の方々は一丸となっているのか、財政が厳しいことをわかって活動されているのか疑問を感じた。議会だより等を見ると「何かしてください」とお金を使うことばかり書かれている。せっかく市議会議員になられたんだったら、「碧南市の財政が豊かになる、こういう案だったらできるんだ」っていうのを皆さん一人ずつ出していただきたい。

そして、彼(一緒に参加した子ども)は温室が好きで、彼みたいに、「本当に好きな人が、こういうふうになれば、あの温室を守れるんだ」という市民の意見を聞けばできると思う。ただ行政の方に「やってやって」じゃなく、彼みたいに「どうすれば守れるんだ」というのがあれば継続できると思う。

A 市長

ここに来ていることが本当の勇気だと思う。前回の新川地区でも中学1年生の男の子の二人が、前向きに意見を言ってくれた。将来を担う子どもたちが聞くには辛いじゃないかという声もあるが、そういう状況だからこそ、僕たちは聞いてみたいということで足を運んでくれた。それはすごい勇気で、そういった子どもたちのために、自分たちが今何ができるかを皆さんから聞いたら、行政任せではなく、少子高齢化が進む中で自分たちで生み出すことが大切だと思っている。

そういった意味で、すごい大変な時期で、碧南市だけでなく、全国的にも同様である。不交付団体の首長や市民病院を持っている163の団体の首長と一緒に要望活動等も行っている。本当、切実にみんな願って今まで口に出せなかった首長もどんどん意見を言って国に上げている。だからこそ、市民の皆様も「こうしたらいよいよ」という提案があったら、ぜひ、私たちだけではできないこともたくさんあるが、皆さんの力をお借りすると一つ一つ解決できることが必ずこの碧南ではあると思っているので、協力をお願いしたい。

【大浜地区】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和7年10月15日（金） 19時～

ところ 南部市民プラザ

出席者 34人

Q1-1 【政策】

削ることばかり考えているように見えるが、市の税収を努力して、民間のように営業して増やすといった考えはないか。

A 市長

ネーミングライツや企業版ふるさと納税、市民の皆様からの提案も受け付けていく。経済的な部分を増やす取り組みも進めていく。

A 企画財政部長

碧南市は近隣より早くふるさと納税に取り組んでいた影響で二十数億円を全国から集め、県下ベスト3に入っている。今後は企業からのふるさと納税にも力を入れたい。また、公共施設に名前をつけてもらい収益を確保したい。昨日から道路などの利用のために確保していた土地の短期間で有効活用できる方法を民間企業から募集している。市の財政のほとんどは市民の皆様や企業からの税金であるため急激に増やすのは難しいが、さらに収入を増やせるよう検討していく。

Q1-2 【政策】

その程度で財政の再建はできるのか。ふるさと納税の金額を大幅に急に増やすことは無理だと思う。色んな企業の誘致などを市長自ら営業をかけてほしい。碧南市の顔として市民を下から支えるような気持ちでやってほしい。そのくらいの気持ちでないと財政再建は厳しい。積極的に動いてほしい。

A 企画財政部長

企業誘致では西端の北部産業地にて誘致を進めている。大手企業とも日頃からコミュニケーションをとり、設備投資などもお願いしている。大手企業なので様々な計画があり、すぐに対応するのは難しいと思うが、企業ともコミュニケーションをとっていく。

A 市長

いろんな企業を私自ら回っており、少額ではあるが収入を増やしている。国や県にもいろいろと動いている。まだまだと感じられるところはしっかりと直していく。24時間働くつもりで努力している。

Q2-1 【財政状況】

自分が町内会長だった平成19年のころの市の財政を100としたら現在はどれくらいか。急に無くなったのか。経過を知りたい。

A 総務部長

平成19年の財政状況と比較できる資料がこの場になく答えられないが、碧南市の税収は臨海部の大手企業からの法人市民税や固定資産税が大きく、ここ15年は大きな設備投資が無かったため税収は下がった。碧南市の税収は法人市民税に非常に左右されやすい。大手企業の有無で自治体の税収に偏りがある。税収格差の是正を名目に12.3%だった法人市民税の税率が6%になった。国が半分を国税化し全国に行き渡るように配分した影響で碧南市の法人市民税は半減した。変わったのが平成29年で12.3%から8.4%になり、後に6%になった。法人市民税の状況は昨年度は40億円あったが12.3%のままなら、さらに40億円の税収があったことになる。市ではどうにもできない理由で税収が減った事情もある。加えて、企業の業績に左右され、トランプ関税の影響も大きかった。去年は40億だったが今年は半分程度、来年はそれ以上に落ち込むと予想している。人件費と物価の高騰の影響もあり税収は減っていくと考えている。

Q2-2 【財政状況】

一番聞きたいのは20年間でどれくらい減ったのか。あの頃は盆踊り大会などで企業から多くの寄付を受けた。今はどれくらいなのか。

A 総務部長

税収としては増えているが使う金額も増えており、物価や人件費もここ数年で急激に高くなっている。

A 市長

碧南市は不交付団体といって国から交付税をもらっていない自治体である。コロナワクチン接種の際、碧南市はお金があるので補助金がもらえず自分たちの税収で政策を行なった。7万人規模の自治体だと病院や上下水道を除いた予算が約250億ほどだが碧南市は約360億ある。

多い税収で増やした施設の維持や様々な行政サービス、市民病院の経営の悪化もあり、なんとかするために動いている。今まで碧南市がやってきたことが現在の物価高や経費の拡大で非常に厳しくなっている。

A 市民生活部長

市民協働という観点では人口減少や少子高齢化などが大きく影響し、家という単位での生活基盤が無くなってきた。人口減少で働き手が少なくなり国や市町村の財源が少なくなった。財政が厳しく、市が全てを行うのが難しい状況で自助、共助、公助という考えの中、市民協働という考えが出てきた。碧南市も市民協働の条例を作って進めてきた。

地域の街づくり組織の準備組織が日進、棚尾、鷲塚の3つで市民協働の準備組織が立ち上がっており、特に日進については街づくり組織に移行するという事で力を入れている。市の地域協働課も一緒になって活動しており、画一的なサービスでは難しい地域の問題をどう解決するか、市のやれない部分をやってもらう組織になっている。日進みらいの会では子ども食堂、カフェ、花をたくさん植えて防犯に役立てたりと地域の課題に向き合って活動してもらっている。一番影響があると思うのが大災害の際に自主防災会などで、ファーストミッションボックスなどを地域の方たちで立ち上げることになっている。自主防災会など何か訓練を行う場合にマンホールトイレの設置など要請があれば防災担当も一緒に行ったりもしている。

Q3-1 【市民病院】

市民病院が赤字だが、人気が無いから赤字なのか。私は行かない。周りの人も「行かないほうがいい」と言っている。20年ほど前、自分の子どもが発熱し、救急で受診したが時間がかかった。即入院で状況がわからないまま何日も過ごした。同様の経験者があり診察や治療が苦手で人気がないのか。

A 市民病院長

外来で混んでいるところはある。人気については我々には判断が難しいが、綺麗で新しい病院を求める傾向がある。また、大きい病院だとより安心するというデータもある。車社会の影響で病院に簡単にアクセスできる事情もある。同様の医療を受けるのであれば、新しくきれいな病院に行きたいと一般的な意見がある。碧南市民病院がこれに当てはまるかはわからないが我々としては一生懸命やっている。そういった声があるとすれば接遇指導をし直し、あってよかったと思ってもらえるような病院にしていきたい。

Q3-2 【市民病院】

安心して受けられる病院であってくれたら患者も増えると思う。病院の設備が新しいほうが良いとは思いますが、医者の人柄も病院を選ぶ理由の一つになると思う。近所の病院の紹介を受けるのが市民病院の役割だと思うが市民病院でたらいまわしにされたりなどを心配している。

A 市長

私が市長になってから市民病院に何度も足を運んでいる。患者から看護師もすごく温かくなっていると聞く。依然と比べて変わってきていると思う。入院する時には他市の病院ではなく、碧南市民病院を選んでもらえるのが一番だと思うので色々に対応していきたい。

Q4 【市の方向性】

少子高齢化が進む碧南市を市長がどういう方向にしていきたいのか教えてほしい。子ども重視の政策で高齢者には負担が増えるかもしれない。開庁時間の削減にしてもどの程度効果があるのか。開庁時間を削減しても残業をしても無駄になる。市役所の中に無駄が多いのは市民の方が知っている。この政策でどのくらい経費を削減できるのか聞きたい。

A 市長

市長になる時に子どもたちに夢や希望が抱ける社会を作りたい、碧南から日本を変えると掲げた。日本人の自己肯定感が子どもを含め低下している。私たち大人の責任だと思っている。自分たちができることを他人に任せずにチャレンジしていく形にしたい。高齢化は西三河でトップ、若い人、特に女性は市外に流出している。昨年度に生まれた子ども473人のうち約1割が外国人である。今年度の8月までの資料では、減少傾向で外国人は2割となっている。

お年寄りも大事だが自分たちができることは自分たちでやっていくと責任を持ちながらやっていきたい。碧南市に限らず人口は減っているが碧南市の場合は企業も多く地元の子どもたちが繋いでほしい。一緒になって子どもを育て碧南が良いと思われるようにするのが大人の責任だと思っている。そのようにやりたいと思い市長になったので、市民の皆様は協力いただきながら一緒になって行政と一緒にしないとできないことをやっていきたい。

抽象的なことかもしれないが意識を変えるだけでも随分と税金の無駄は減っていくと思う。家の前の草を取るだけでも業者を呼ばなくても済む。それだけでも随分変わる。開庁時間や建物を減らせば職員も減る。大切な税金をどう使うか議論しながら新しい形に整えていくことができればうれしい。

A 企画財政部長

開庁時間の短縮は基本的に働き方改革という要素が大きく、現在8時半から17時15分まで市役所の窓口はずっと開いており、受付で発生した書類等の整理や処理が時間外になる。加えて、窓口が開いていることで職場の中のコミュニケーションも十分とれない。人材の確保という点も含めて開庁時間の短縮を進めている。窓口を短縮すると窓口業務をする職員の勤務時間も短縮される。残業は職員の数を減らしても億単位の浮いたお金は発生しない。経費をかけて書かない窓口の拡充を行っているので、市役所よりもコンビニ交付を安くするなどし、窓口業務と職員を減らしていけたらと考えている。

A 市長

私は公約で掲げた経済の成長と少子化対策を進めていきたい。少子化が進むと継承者不足などにも発展し厳しくなる。公約を実現できれば一番ありがたいが、まず経済成長と行財政改革をやると掲げていた。縦割り行政に横のつながりとして企画財政部を作り財政状況を把握した。財政の悪化を立て直し、その

過程で税収を上げたり少子化対策していかないと碧南市が持続可能にならないと思っている。

Q 5 【町内会】

中区の町内会は区民の高齢化、人手不足、負担の増加、役員の担い手不足があり、今年は役員を据え置きとした。町内会によっては3人ほどで回しているところや町内会長を3回やったら一人前と言われるところもある。町内会の人手不足の深刻化について、行政の考えやアドバイスがあれば教えてほしい。

A 市民生活部長

町内会の役員のなり手不足、町内会の加入率の減少は把握しているが妙案はない状況。広報の配布回数やごみの立ち当番の削減と町内会の負担を軽減はしている。しかし、高齢化や核家族化が進み、町内会に入って色んな行事に参加するのが煩わしく思われ、加入率が下がっていると聞いている。私どもも妙案は持っていないが、市民の皆様の意見も聞きながら改善していきたい。

A 市長

日進みらいの会の良いところは子供たちや高齢者の方がみんな一緒になって和気あいあいと自分のできることをやれる環境を作っていること。資源も資源ごみ回収ステーションに集めたり新聞紙やペットボトルを集めながら資金を集めたり公民館の運営などでも同じように稼いだりと自分たちでやっているのでコミュニティの環境が凄く良くて整っている。私は棚尾の出身なので棚尾の会にも入っていたが、町内会云々よりも隣近所といかに話していくかどうかによっても町内会の加入率というのは変わってくると思う。その地域のコミュニティをいかに盛り上げていくのが大切だと思う。大浜区でも日進みらいの会のようなものを作れば変わるのではないかと思っている。

A 企画財政部長

担当ではないが日進みらいの会を作った人間として発言をするが、日進みらいの会は防災関係や子ども食堂などやっている。町内会の役員になると行事全て関わらないといけないが、日進みらいの会というのは自分が関わりたい行事のみ関われば良く、防災なら防災、草取りなら草取りと一部だけなら協力してもよい方を集めるのが地域活動のヒントかなと思っている。参考になるかはわからないが全部やると負担になるのが今の町内会の実態だと思う。

Q 6 - 1 【少子化対策】

少子化対策として子どもを育てる上で、養育費や教育費が懸念されるが、下支えするようなことは考えているのか。

A 子ども健康部長

学校教育とは別の子育て支援で昨年の10月より児童手当を拡充し第3子以降1万5千円から3万円へ、所得制限も撤廃、支給年齢も中学3年生から高校3年生まで拡充した。保育園に関係するものでは第3子は無料だった制度を本年度10月から第2子の無償化または半額減免など所得階層に応じた支援の拡充をした。昨年度から通院・医療費の無償化を18歳まで拡充した。

A 教育部長

収入制限はあるが文具購入資金の支援制度や野外活動資金の支援制度がある。問い合わせは市役所5階まで来てほしい。

Q6-2 【少子化対策】

学習塾やスイミングなどにお金がかかるがそれについてはどうか。

A 教育部長

行政として支援できるのは義務教育の部分や学校生活となりプラスアルファの部分の制度はない。

A 市長

勉強する場所として夏休みに公民館の無料開放を小学生中学生にしている。兄弟がいて集中ができない方がいると聞いている。塾とは異なるが勉強ができる環境を提供している。

Q7 【給食費の無償化・公共施設】

小学校の給食費が3学期は無償化されると聞いたが、量だけは減らさないでほしい。

公共施設の方向性を変えると聞いたが、お風呂は3つもいらぬ、ジムの利用者が少ない、エメラルドホールがあるため文化会館はいらぬ。具体的な話を聞きたい。

A 教育部長

給食の量は減らさない。文化会館は老朽化でエアコンが効かない部分がある。最上階は夏の期間に予約を停止している。施設が重複して不要という意見は参考にするが、使えるものは使いきるという考えである。

A 企画財政部長

同じ施設は文化会館と芸術文化ホール、お風呂3つ、トレーニングルームが3つ、図書館が3つある。碧南市の規模の自治体では多いため統廃合するが、使えるうちに閉じるのは違うので、順位を付け統廃合が決まったら周知する。修繕費が増えており、エアコンが効かない部屋は貸出さず、それ以外の部分は使う。費用をかけて都度直すといつまでも使えるため、使い切ったら壊す方針。公共施設を減らす総論には皆さん賛成だが、自分が使う施設の廃止は反対される。人口減少などの実情に合わせて施設の在り方を検討していく。

Q 8 - 1 【町内会】

町内会の加入率が平均60%と聞いている。青少年育成委員、南中のいじめ問題専門委員、民生委員やPTA、どこに行っても同じ顔を見る。日進みらいの会の草取りなどうまくいけば来るが、町内会ではほとんど来ない。加えて、集金や消防団の募集、民生委員の募集などの負担があるため80歳以上は町内会をやめていく。仕事が増えて困っている。

A 市民生活部長

町内会の皆様には負担の多い中で、役員の方には難しい人選をお願いしている。大浜地区の加入率は令和5年が65.9%、令和6年は64.8%、令和7年は62.8%と市全体の64.7%と比較すると低い。

消防団は地域の方が選出し5年で辞めるため経験者が多くなる。災害対応で活躍できる人が増える。この仕組みをいつまで続けられるか危機管理課でも考えている。現在、団員は年7人選出しているが再来年度から5人の募集にし、負担軽減の検討を進めている。

A 福祉部長

民生委員は地区の方が探すという法的根拠はないが、適格要件に社会奉仕の精神に富み、人格・識見が共に高い人となっており、地区に詳しい人としてお願いしている。現役の民生委員の方とタッグを組んで探してもらっている。市も協力するためお願いしたい。

Q 8 - 2 【町内会】

私は以前までサラリーマンで、やっと定年を迎えて町内会長をやったが、地域の誰も知らない。民生委員の方にも民生委員は町内会が探すものという意識がある。

A 市長

私も民生委員が不足していると聞き探した。大変な中、やっていただいていることは理解しており、大変感謝している。

Q 9 【町内会】

市民病院に行ったが問題なかった。しかし、家族には評判が良くないから行くなと言われる。お世話になっており、私は感謝している。

仕事をしているため時間の制約があることを承知してもらい町内会長をしている。受けた際に役員もやってくれと言われた。金銭の負担の話も来るが、一円も出すなどみんなに言っている。地元の祭りに地元の人に参加できるよう開催日を変更するなど努力もしている。外国籍の区費を払っていないルーズな方が増えてきた。市は区民を増やす案が無いと言われたが、案が無いならやらないではなく、タッグを組んで色々

な人の意見を聞いて一緒にやっていきたい。

A 市民生活部長

地域協働課にて町内会募集のパンフレットを配布しているが、外国人用を作成しているかは把握していないが無ければ作成を検討する。町内会の募集方法は市も妙案を持っていないため皆さんの意見も参考に一緒になって考えていきたい。

A 市長

天王区ではベトナム人の方が部長やPTAをやっている。外国人の方も入りたい、仲間になりたいと思っているが方法がわからない。そちら側の話も聞いて、皆さんの仲間に入れていただきたい。

Q10 【道路・公共施設】

沢渡町と松本町の間を東西に走る道の生垣の剪定のやり方が悪く見栄えが悪いので何とかしてもらいたい。

文化会館を使い切ると説明を受けたが、令和10年でマイナスになる想定の中、悠長な計画だと思う。文化会館や図書館を使い切る前に廃止しなければ、令和10年には間に合わない。

A 開発水道部長

道路の植栽は剪定を1回、雑草の除草を4回実施している。植栽の見栄えについては現場確認の後、業者へ指導をする。

A 企画財政部長

公共施設の統廃合については勇気をもって進めていく。

【棚尾地区】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和7年9月30日（火）19時～

ところ 棚尾公民館

出席者 18人

Q1 【財政調整基金】

財政調整基金は全国平均の一人当たりの単価などと比較し、いくらあれば良いか、他の自治体の状況や無くても問題ないか。

A 企画財政部長

国は碧南市規模の自治体の標準財政規模である200億円の一割は財政調整基金を確保してほしいと考えている。碧南市は財政規模が370億円あり、国の基準と比較し大きく余裕がある。しかし、税収は輸送関連企業の景気の動向に非常に左右されやすいため、50億円を目安に確保してきた。

財政調整基金は令和5、6年度は60億円あったが令和7年度には半減し、3年後には無くなる状況。歳出を縮小し非常事態に備え一定の貯金を確保するため今回の財政非常事態宣言に至った。財政調整基金を崩さないと年度当初の予算編成ができない場合がある。7年度予算編成時は約20億円を取り崩した。この事態を踏まえると財政調整基金が無いのは大変危険な状態である。

Q2 【公共施設】

公共施設の修繕費用が嵩んでいると思うが建設時に予測できなかったのか。美術館や風呂の修繕に予算をあてているが、建物を建てたら修繕が必要となるため出費は予測できる範囲だったと思うが、市はどのような見通しだったのか。

A 企画財政部長

学校施設は計画的に修繕してきたがその他の公共施設は予算が厳しく修繕が後手に回っている。市内の公共施設の多くが築40年を超え劣化が進んでいる。加えて、学校施設の修繕では国の予算が厳しく補助金が出ないと突然言われた。特に義務教育の施設を優先で修繕しているため、一般的な施設を取り残しているという状況は否めない。

Q3 【ポートアイランド】

碧南市南端のポートアイランドは今後誰が所有し利用するのか。

A 建設部長

ポートアイランドは愛知県の事業で、衣浦港の港湾計画で埋め立てを進めている。面積は約42ha、1、2、3工区に分けて工事を進め、1、2工区は衣浦港の浚渫の土

砂を利用し工事はほぼ完了している。

今後の土地利用については現在の埋め立て用の仮の橋を利用できる橋に作り替え、港湾として船を停める護岸施設や港湾道路を作る計画で県の施設だが碧南市の用地になる。早く港湾施設として利用できるように港を挟んだ半田市や武豊町と国へ要望を行っているが、ポートアイランドを利用する企業の具体的な計画が立たなければ事業化は難しいと言われている。

Q 4 【空き家対策】

棚尾商店街通りには父の時代に道路拡張工事の杭が埋められ、家を建てる場合はセットバックしている。街道沿いや若宮町付近に空き家が増えている。道路拡張の計画は交通量が増えるから行うと思うが、今後の事業化は有り得るのか、無いならば杭などは今後どうしていくのか。

空き家が増えているが、更地にすると6倍の固定資産税がかかるため取り壊しが進んでいない。更地になれば防災、商業用地等の活用の幅が広がる。空き家対策のために更地に対する減免申請制度の導入する予定はあるか。

A 建設部長

旧247号線は愛知県が管理整備しており、18m道路への拡張計画に合わせて杭が設置されている。愛知県内でも未整備の都市計画道路が複数あり、整備効果が大きい道路から集中整備を進めている。棚尾商店街通りの拡張についてはすぐに始まるような印象はない。

空き家については、平成30年度に碧南市空家等対策計画を策定し、除却の補助や所有者を訪問し除却のお願いをしている。現在、非常に危険な空き家である特定空き家が3棟、管理不全空き家が6棟あり、手紙や訪問で除却のお願いを進めている。実績としては特定空き家を3棟除却、管理不全空き家を1棟除却、1棟修繕していただいた。相続放棄された空き家は、相続財産清算人を申し立てし除却を進めている。空き家を除却した後の更地の減免申請の検討はしていない。

Q 4 【財政・地域振興】

生まれも育ちも仕事も碧南で、20代のころは潤っているような、躍進していくような感覚があった。今、碧南市はいい街になり、大きい企業も入ってきたりと、財政難の話聞いて驚き、疑問を感じた。中小企業も頑張っている、ふるさと納税も寄付が多くあると聞いている、それでも財政難ということいろいろあると思うが、歳出削減については気が付くところはやって、良いところは伸ばしてほしい。

質問ではないのですが、祭り等の楽しいこともみんなですていきたいので、歳出削減にはそのような点も考えて進めてほしい。

A 市長

碧南市の税収は中部電力が来て上がったが、減価償却で下がってきた。市民の皆様が碧南市のために頑張っていることは知っている。市長になり建物が多ことや、病院の赤字経営等を知った。財政部局を作り、対策を考えている。

時代の流れで、去年は473人の子が出生した。私が21歳だったころと比較し約4割ほど減少している。出生数は30人代で推移し、いずれは400人を切る可能性もある。加えて、碧南市には外国にルーツを持つ子どもが増加している。急激な少子化に加え、高齢化も進み4人1人が65歳以上となっている状況で、自分が生活する上で何が碧南市のためになるか、新たな財源を探すなど、今が転換期だと思っている。暗い話が続いているが、皆様の力もお借りして碧南市を変えるチャンスだと思っている。これは無くても良いと思うサービスの削減や公共施設の民間活用などのより良くするための皆さまの意見を聞いていきたい。

Q 5 【財政調整基金】

基金残高が半額程度まで下がったのは異常だと思っている。民間の力をもっと借りて、スピード感をもって対応した方が良い。碧南市は昔から施設がたくさんある認識があり色々なお金がかかるというのも理解できる。市民病院に関してもお金がかかるのもわかるが民間基準で考えたり、健康診断を増やしたり高齢者の病気の防止事業などどうか。

A 企画財政部長

現在、民間提案制度の導入を検討している。過去に将来の公共用地として取得した未利用の土地が多くあり、民間での活用も考えている。加えて、同じ機能の公共施設も多く、図書館が3つ、市民ホールは文化会館と芸術文化ホールの2つ。7万人規模の自治体での必要性や統合集約の検討をしている。修繕すれば長期利用できるが、市内に同じ機能の施設があれば修繕をやめ他施設への利用の切り替え、取り壊し、民間活用を考えている。

A 市民病院長

碧南市の健康診断は保健センターの医師会が担当している。健康診断というのはいい財源にはなるが急に増やしたとしても大幅な収益の増加は見込めない。また、健康診断を行う場合、医師との調整、検診の周知が必要となり時間と労力を要する。加えて、収益を上げるには固定の企業に定期的に受けてもらえなければならない。

乳がんや脳ドックなどの特定の臓器の検診を増やすことが経営の議題に上がっているため検討していきたい。

Q 6 【財政非常事態宣言・アジア大会】

障害のある方は新聞やテレビを持っていない方が多い。財政非常事態宣言を知らない人も多くいる。開庁時間の短縮等も知らない方が多く、パニックが起きないため

の周知活動、サポート体制の強化をしていただきたい。

アジア大会で来る海外の選手に通訳等のサービスを有料で利用してもらおう等、税金につなげていただくことを考えていただきたい。

A 総務部長

開庁時間短縮は広報やSNSを活用しきめ細やかな周知を実施しているが、行き届かない特定の方への周知の良い方法があれば教えていただきたい。

A 教育部長

アジア大会で海外選手が多く来られると予想される。現在、棚尾商店街さんと協力をし、毘沙門さんでご祈祷していただくなどの様子を海外選手に出していけたらと話をしている。海外選手が碧南市に来て良かったと思ってもらえれば大会後も集客が期待できる。また、大会準備室にて期間中に地元の食べ物や文化に触れてもらう企画を検討しているため何か知恵があればいただきたい。

Q7 【防災】

棚尾地区では4月から公民館が避難所から外れ棚尾小学校だけになったが、全員が避難するのは難しいと思うがどのように考えているのか。

A 市民生活部長

避難所が浸水した場合、避難経路がなくなり二次災害につながるため基本的に浸水地域の施設は指定しない。令和7年3月に行われた大規模災害の想定では60分で30センチの津波が到達する。一時退避場所も浸水エリアは極力指定しないことにしている。お年寄りの方のように安全に避難する時間が足りない場合は垂直避難が必要になる。

基本的に一時退避場所を指定すると市民が集まってしまう。緊急時に垂直避難できる場所があれば一時退避場所として指定する方針だが、2万3千人が被災すると言われており、全員が避難することはできない。避難所の大広間でも人数がいると狭い臭いや音などで不快に感じると思う。避難所で生活するのは苦痛だと思うので、自宅が無事であれば自宅、親戚の家、友人宅、庭先でテントなど、能登ではハウスで避難生活をされていた方もいた。避難所での雑魚寝は最終手段だと思う。全ての住民が避難するには避難所が足りないのが現状。

Q7 【防災】

棚尾地区の防災訓練を毎年やっているが、ファーストミッションボックスが使いにくい。大災害時にキーボックスを開けるために市役所へ電話するが、その際に市役所に繋がるとは思えない。現状に合わないルールがあるので少しずつでも改善をお願いしたい。学校の防災教育も積極的に取り入れてほしい。

A 市民生活部長

ファーストミッションボックスは令和3年に地区防災会の皆さまとの訓練時の意見を参考に、令和4年に一旦は完成としマニュアルを配布し、改善点のご意見をいただいている。コロナ禍に作成したマニュアルのため改良する必要がある。

A 教育長

学習のカリキュラムは各学校が地域の特性に合わせているため、小学校の6年間で授業がない学校もある。どの学校も年に3回は地震や火災の防災訓練があるため、その際に担任が防災の話をしている。中学生には災害時に避難所となる学校の運営を町の人とどのように行うか考えてもらう取り組みもしている。今回の防災教育の意見について各学校に伝えていきたい。

A 市長

市長になる前から棚尾地区の自主防災について考えてきた。子どもや障害を持っている方、外国にルーツがある方も一緒に取り組んでいくのが一番大切だと思っている。子どもは大人が気づかない視点を持っている。棚尾地区は独自に総合防災訓練を行っているので様々な立場の方を含めて訓練を続けていってほしい。

Q8 【施策・議員の削減・市民病院】

サンビレッジの無料券は廃止しないのか。市議会議員は削減しないのか。市民病院に通院しているが医療費が安いと高額にできないか。

A 福祉部長

お風呂券などの無料のサービスについては見直す方針である。

A 議会事務局

議員の定数削減については議題にも挙がっており現在検討中である。

A 経営管理部長

診療報酬は国から決められており金額が抑制されている。人件費や物価の高騰が診療報酬に反映されず非常に苦しい状況である。使用料手数料の見直しを行っているので、病院の自費部分の料金も検討している。

Q9 【防犯】

防犯カメラの補助金制度について、補助金を申請するためには駐車場が5台分のスペースが必要となっているが、防犯の目的としてカメラを増やすために補助金制度の見直しをしてほしい。

A 市民生活部長

防犯カメラは当初、商店街や町内会へ設置してもらった。警察からの増設の要請を受け一般の事業者にも事業を拡大し5台以上の駐車場がある事業者を対象にした。

令和6年度末で公共施設に382台、補助制度を利用した町内会設置が39台、商店街設置が31台、一般事業者が91台ということですので合わせて543台設置して

いる。警察と相談して設置数を増やしてきた経緯もあるため、制度の拡充をこの場で回答することはできないが、意見としていただき検討していく。

【旭地区】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和7年10月21日（火） 19時～

ところ 東部市民プラザ

出席者 41人

Q1【市民病院】

今回、財政非常事態宣言が出されたことを受け、自分ももっとどうにかしたいという思いがある。重要なのは、市民、企業、行政、議会、そして市長が一つになり、ワンチームで取り組むことだ。より多くの人に現状を知ってもらい、一丸となって前向きに取り組んでいきたいと考えている。

そこで、市民病院の今後について5点を問いたい。

1つ目は、数年計画での廃止を検討しているかどうか。

2つ目は、市民病院の売却・譲渡についての考えである。

3つ目は、診療科目の見直しである。現在の診療科目を精査し削減することも検討すべきではないか。

4つ目は、専門分野への特化についての考えである。

5つ目は、改善プロジェクトチームの設置についてである。現状の延長線上にある組織ではなく、経営のプロ、企業、学生、市民を交えた多様な視点によるチームである。身内だけで議論しても抜本的な改革案は出にくい。多様な立場の人材を入れ、経営面などに厳しくメスを入れなければ、30億円もの赤字改善は不可能である。

市長が掲げる「子供たちが未来に夢と希望を持てる碧南市」を実現するためには、大人が一つになり夢と希望を持って行動しなければ、子供たちの意欲も湧かない。今後予定されている統廃合や財政の見直しを、バランスよく進めてもらいたい。この厳しい状況下では、市民も痛みを分かち合う必要がある。同時に、行政幹部や議員の給料一部カットやといった姿勢も必要である。さらに、議員定数についても大幅な削減を求める。

A 経営管理部長

市民病院の今後について、廃止を前提とはしていない。市民のための病院であり、年間3,500台の救急搬送を受け入れている現状を考えると、今すぐ閉じることは考えていないが、市民の皆様が必要ないという判断を下す場合には、そうした選択肢も検討していくことになる。

2点目の民間への譲渡について、碧南市が属する西三河南部西医療圏には収益性の高い有力な病院がある。このような状況で、あえて碧南に民間が参入してくることは考えにくいのが正直なところである。

また、専門家を入れるプロジェクトチームについてだが、本日、2回目となる市民病院緊急経営対策会議を開催した。市からは副市長をトップに関係部長と病院幹部が、継続可能な運営体制をいかに築くかを検討している。その中で、不採算な診療科をどうすべきかという議論も行っている。自治体病院として財政状況を理由に、不採算診療科を廃止することは本来ないことだが、市民一人あたり4万円を超える税金が投入されている現状を考え、検討している状況。まずは実情を熟知している市内部の会議で一定の方向性をまとめたいと考えている。その進捗については、年明けに市議会へ報告する予定。専門家の導入という提案についても、アドバイスを真摯に受け止め、検討を進めていく。

A 市民病院長

専門家の導入については、我々も常に検討している。しかし、適任者を招くことは簡単ではない。また、人を呼べば済むという問題ではなく、人を呼ぶためには診療体制を整え、必要に応じて新たな医療機器を導入しなければならない。そのため、市内で実施されていない特殊な検診の導入など、現在は既存の機器で可能なことを模索している。市民病院を運営する以上、市民のメリットになるものでなければならない。小規模な病院が何もしなければ突然患者が増えることは考えにくいため、市民病院に来てもらうためにアピールしていく必要がある。

診療科の整理については、特定の科がなくなった際に市民へどのような影響が出るかを慎重に考えなければならない。採算が合わないからといって直ちに廃止できるものではなく、その科があることで成り立っている側面もある。しかし、無駄に維持し続けることも避けるべきである。整理によって利用者に不都合が生じる場合は、十分な理解を得られるよう努めていく。

救急体制についても、現在は外部から来ている医師が多いが、若い医師を確保して夜間診療などを担ってもらうことができれば、人件費の削減にもつながる。今何ができるのかを総合的に判断していく。正直なところ、現状はPR不足であると痛感している。市民病院でどのような医療が受けられるのか、情報発信を強化していきたい。

A 市長

別地区のスマイルトークでは、実際に市民病院を利用している方々から「非常に良い病院だ」という声があった。一方で、「市民病院は使わない方がいい」という風評が流れているとも聞いた。実際に利用している人の評価と、周囲の噂との間には大きな差がある。評判に惑わされず、事実を見極めることも大切。市民の皆様には積極的に利用してもらいたい。

Q 2【市民病院・政策】

市民病院について、かつてのように持ち出しが13億円程度であれば維持も可能だろうが、現在の17億円の持ち出しでは維持できないため、余分なコストをどう削減するかが課題である。診療科の整理は単に「採算が合う・合わない」という視点だけで切るべきではない。重要なのは市内の開業医で対応が可能かどうかである。開業医が対応できる科は思い切って整理し、その分他の診療科を充実させていくことが必要である。

また、緊急行財政対策の重点項目について、すべてを一律に実行することに疑問を感じる。特に項目3の標準的な市民負担への見直しと項目4の施設維持についてである。碧南市では現在、ゴミ袋の無料配布や、他市より低い都市計画税といった独自の恩恵がある。これらを安易に他市並みに引き上げてしまえば、碧南市の魅力が損なわれる。碧南市で子育て、定住したいと感じてもらうためには、固定資産税や都市計画税、ゴミ袋無料化といった利点を残すべきである。財政が苦しいからといって、標準的な市民負担の見直しを一律に実施するといった安易な手法ではなく順位付けしてほしい。

また、公民館などの公共施設も碧南市の誇りである。文化活動や交流の場として非常に恵まれていて、今後も残した方が良い。

Q 3-1【緊急行財政対策】

緊急行財政対策で挙げられている項目は、サービスを削る話ばかりである。市長が地域コミュニティが回りにくい時代であると以前言及していた。そのような状況を踏まえ、施設を10%ずつ減らすよう計画したということか。

A 市長

碧南市は公共施設が非常に多く、平成29年に施設を10%削減する計画を立てていたが、実際には施設が増えている。人口7万人に対し、同じような用途の建物が数多く存在しているのが現状である。これまでは「建物を80年持たせる」という考え方であったが、時代に合わせ、2つの施設を1つに統合したりするなどバランスを良くしていくということ。

Q 3-2【緊急行財政対策・町内会】

緊急財政対策を掲げている割に、幹部職員目の色が変わっているようには見えない。これまでの回でも同様の意見が出ているはずだが、行政側の口調に変化が見られない。明るく笑いながら市民サービスを削る方向性を示しているため市民と温度差がある。

また、私が地域コミュニティを活性化させようと町内会の加入率向上に向けた相談をしても、個人情報壁を理由に断られてしまう。このままでは地域の

コミュニティは衰退し、錆びついてしまう。寄り添ってもらえず、形ばかりの労いの言葉をかけられているだけのように感じる。さらに、現在は17時15分まで開いている庁舎を16時で閉めるという。これでは市民サービスとは言えない。地域コミュニティを担う人々に対しどのように動いていくのか。

A 市長

幹部職員が笑顔を浮かべていたのであれば申し訳ない。辛い時に辛い顔をすると辛くなってしまうため、私は「スマイル碧南」を掲げている通り、まず笑顔でいることを心がけている。泣いていても現状は変わらないため、乗り切るために、やる気を持って笑顔で真つすぐ取り組むことが大切。

また、他の人口7万人規模の市では、一般財源200億程度で市政を運営している。碧南市は360億かかっている、他市に比べて100億以上もサービスを提供している状態である。今回の施策は、単にサービスを廃止して市民の皆様を苦しめるためのものではない。まずは他市と同等の標準的なレベルまで協力いただきたいということである。少子高齢化が進み人口が減少する中で、これまでの税収に頼ったまま過剰なサービスを維持し続けることは、正直に言って不可能であるため、やり方を変えなければならない。

自分たちでできることは自分たちで行い、行政と市民が一緒になって取り組むことは一体となって取り組む。そういう街へと作り直すチャンスであると考えている。市民の皆様にとって厳しい提案に聞こえるかもしれないが、自分たちで新しいものを生み出していく姿勢が重要である。市役所も、これまでの税収頼みの姿勢を改め、ネーミングライツや企業版ふるさと納税、提案型施策などを通じ、新しい碧南市をワクワクしながら共に作っていききたい。

Q4【財政意見】

厳しい財政状況を招いたことに対し反省し、この市をどうしていくべきかを市民と一緒に考え、乗り越えていかなければならない。市だけではなく、市民一人ひとりが危機感を抱きどうするか考える、といった地域社会の中での動きを作り出す必要がある。現状のままでは碧南市に子供たちの未来はないと感じている。行政にすべてを委ねるのではなく、市民が自ら立ち上がり、財政豊かなところまで市を盛り上げることをしていけないと感じている。

現在、碧南市は先行して困難な状況にあるが、人口減少が著しい日本において、全国の自治体も遅かれ早かれ同様の事態に直面するはずである。もし碧南市がこの財政難を乗り越え、未来への礎を築くことができれば、全国の自治体の見本となるだろう。それが碧南市の魅力となり、より豊かな街へとつながる。それは大変な道筋だがやるしかないからこそ全部を市に任せるのではなく、市民も力を合わせて取り組む姿勢が必要である。各町内会の方々も、同じ

意識に立って盛り上げてもらいたい。

Q5【市民病院・子育て・要望】

市民病院については、医師会との連携をとり、市民病院のあり方や大切さをより多くの市民に周知してもらいたい。医師会と連携してもらいたい。

また、子育て環境について、これまでは裕福な街として手厚い行政サービスが当たり前のよう享受されてきた。しかし現実には、年間出生数が400人を下回り1校ほどの人数である。この状況を知った時に、いかにして子どもたちとの接点を上手に持つかということ、皆さんと考えていけると嬉しい。

市民に対し「痛み分けしてほしい、他市並みの負担をお願いしたい」と求めるのであれば、行政側も相応の「痛み分け」をしてほしい。

また、ごみ袋について、広告が掲載されていることによって市民にどれだけ優遇できるのか説明した上で、協力を仰ぐのはどうか。

A 市長

ごみ袋に関して、国は2030年度までに温室効果ガス（CO₂）の排出量を2013年度比で46%削減するという目標を掲げているが、碧南市のごみ排出量は減少していない。環境負荷の低減と財政の両面から、ごみ袋の無料配布を継続することが適切なのか、考える時期を迎えている。

A 経済環境部長

ごみ袋の配布状況は、市民全員に80枚を無料配布し、町内会加入世帯にはさらに20枚を加算している。世帯人数に関わらず一律で配布しているため、単身世帯では袋が余り多人数世帯では不足するという不公平が生じている。ごみ袋が余ることで、ごみの減量化に対する意識が薄れてしまうことも考えられる。必要な分だけを購入していただくことで、ごみの減量化を図るため、有料化について検討していきたい。また、生ごみ処理機の購入補助制度など、市民一人ひとりがごみ減量に取り組むための後押しをしていきたい。

Q6【市民病院・公共施設】

市民病院の夜間救急について、たらい回しがないようにしてもらいたい。

また、油ヶ淵の都市計画公園について、計画策定から20年が経過しているが、市民病院周辺のエリアはいつ着工し完成する予定なのか。大きい公園が整備されれば小規模な公園を整理・統合でき、維持管理費の削減にもつながるはずである。県に対して早期着工を強く働きかけてもらいたい。

最後に、公共施設の維持管理費にいくらかかっているのか。例えば美術館など、有料での利用者は何人いるのか。たくさんある箱物を減らし節約すると良いのではないか。

A 市民病院副院長

現在、医師の高齢化が進んでおり、夜間においては、各科の持ち回りで対応している。救急の応率は約10%である。赤字でも残すべきなのか、そこまでは不要なのか、市民の皆様が市民病院を今後どのような形を望んでいるのか意見を聞き、議論を深めていきたい。前向きな意見が増えることは、現場で働くスタッフにとって大きなモチベーションにつながる。

A 市長

油ヶ淵の整備に関する要望活動は、毎年国および県に対して要望活動をしている。もともと30年構想の計画のため、時間は必要となるが、今後も要望活動をしていく。

A 教育部長

美術館の年間の維持管理費は約1億円強である。企画展には、毎回5,000人から1万人弱の来場者がある。有料での入場人数の数字は今持っていないが、美術館は教育施設としての側面も持っており、小中学生の課外活動の場としても活用されているため、金額だけの判断は難しい。各施設では、歳入を増やすための工夫もしているため、厳しい財政状況ではあるが、教育的な役割も含め、温かい目で見守ってもらいたい。

Q7 【環境】

地域における高齢者のごみ捨てについて、免許を返納し、足腰が不自由になった高齢者がごみ収集場所までごみを運べず、自宅がごみ屋敷化している現状がある。自宅の玄関先や庭まではごみを出せても、収集車が入れないという理由で100メートル以上も歩かされている。収集車が入れない狭い道路であっても、軽トラックであれば通行可能なため、軽トラックで各戸のごみを回収し、広い場所で収集車に移し替えれば良い。各家庭の玄関先にごみを出す仕組みにすれば、生ごみを捨てる人もわかるため、こっそり捨てるようなことはなくなり、カラスにごみを荒らされることもなくなる。

A 福祉部長

介護が必要な高齢者のごみ出し支援について、主に二つの支援方法がある。一つは、介護保険の在宅サービスを活用し、ごみ出しの支援を受ける方法である。もう一つは軽度生活援助で、1時間あたり200円の自己負担で利用可能である。今後高齢者がさらに増加し、現在のサービス体制では対応が困難となる状況が生じれば、新たな施策を検討する必要があると考えている。

Q8 【子育て・スマイルトーク】

児童クラブについて、少子化と言われながらも定員超過のため利用できない

と言われた。対策として他地域の児童クラブを利用しタクシーで送迎する案も提示されているが、その費用はどこから出ているのか。それよりも児童クラブの拡充をしてほしい。本当に必要なことに予算と場所を充ててほしい。

また、スマイルトークについて、テーマやターゲットを絞って複数回開催してはどうか。何かを削る議論ばかりではなく、今できること、碧南のことをアピールすることが大事。そのためにSNSなどを活用して若者の意見を取り入れると良いと考える。

A 市長

対話の場として昨年からおしゃべり会を開催しており、昨年は10人程集まってもらい開催し、前向きな意見もたくさん出た。対話を重視し、より少人数でも参加、意見交換できるように今回のスマイルトークを開催した。予算には限りがありすべての要望を叶えることは難しいが、対話を通じて前向きな意見が生まれるため、意見交換という形で開催している。

【西端地区】未来へつなごう！スマイルトーク

と き 令和7年10月6日（月） 19時～

ところ 西端公民館

出席者 21人

Q1【要望】

8月30日の新聞の記事を見てがっかりした。9月20日の新聞の記事を見てさらにがっかりした。財政非常事態宣言の話があったら、我々は何も言うことが無い。なので、今日の話聞いて碧南市の財政が豊かになったら西端はこういうことがしたいと考えていると頭の隅っこに入れておいてほしい。

A 市長

非常事態宣言について私は悲観しておらず、碧南市が変わるチャンスと考えている。人生を振り返ると成功や変わるとき、このようなことがあると思っている。これは市民の皆様と碧南市を作っていくチャンスである。明るい気持ちで前を見て話をしていただけだからと思う。

Q2【公園・健康】

西端地区には老人クラブが複数あり、健康づくりの一環で月曜日から金曜日まで油ヶ淵運動広場でグランドゴルフを行っている。広場が水辺公園に変わると話を聞いた。広場が利用できなくなる前に空き地となっている市営宮下住宅の跡地でグランドゴルフができるようお願いしたい。免許を返納している利用者も増えているので近場で続けたい。高齢者の認知症予防や健康維持につながり財政にも貢献できる。

A 開発水道部長

油ヶ淵水辺公園の供用開始部分は全体計画の20.9%。市内の用地買収の進捗は85%となっている。運動広場は用地交渉が難航しており数年は公園整備が難しいため2、3年は利用できる。

A 建設部長

市営宮下住宅の跡地は住宅を取り壊し綺麗になってはいるが、碎石等が埋まっており安全に利用するには整備が必要。多額の費用がかかるため、いますぐグランドゴルフができるような環境整備は難しい。

Q3-1【財政非常事態宣言】

経営者視点では財政非常事態宣言の内容の理解や納得ができる。しかし、従業員視点では削減や縮小だけ記載され不安になるため、メリット等の記載ができないか。

A 副市長

行政の立場上、記載できる内容が限られ、不安を煽る記載が多くなってしまふ。北部工業団地やJERAのアンモニア燃焼の事業など、今後の税収の増加の可能性は資料には落とし込めない。それまで凌いでいくような対策を行っていきたい。

Q3-2 【要望】

西端は市役所から距離がある。市も南に町づくりをしようとしている。西端は安城や高浜と地続き、幹線道路も近く西端を活用した方が良いのではないかと思う。そのような部分を生かした事業を他市とやってみてはいかがか、上手に西端を使っていたらどうかお願いしたい。

Q4-1 【町内会】

非常事態宣言を受け、区民館の施設などの運営、修繕費の減額はあるか。

A 市民生活部長

碧南市では区民館への運営補助が他市に比べて高額になっている。各地区で多くの区民館を作ってもらった経緯がある。運営費に補助金を出しているが、今回の非常事態宣言の中で不都合があれば是正し、見直しを行っている。補助金を減らさないといった約束はできないが、経緯も含めてどのような形が良いか検討している。

Q4-2 【地域振興】

地域振興事業に関しては目的が「地域の健全な発展を図る目的で行われる事業に対して助成する」と資料に書いてあるがここだけは死守してほしい。

A 市長

今回の場では意見交換をしたいと思っている。皆さんの気持ちの熱量は伝わっている。しかし、財源には限りがあるのでこの事業を減らし、この事業を手厚くするといった案を聞かせてほしい。今まで豊富な税収で様々なサービスを行ってきたが、人口の減少、税収の減少を踏まえ、西三河の平均的なサービスにしていく。その中で町内会の加入率が一番大切だということもわかるが、具体的にこうすれば加入率が増えると思う等、市の職員では思いつかないような発想もあると思うので、様々な意見交換ができたらと思う。個人的な意見でも遠慮なく発言してほしい。

Q5-1 【人口減少対策】

人口減少を話題にしているが、市としては対策を考えているのか。

A 子ども健康部長

令和7年度から県の補助金を使い保育園の3歳未満児を第2子から無償化あるいは所得に応じて半額にするなど事業を拡大した。結婚新生活支援で住宅の補助制度を総務部で設けている。それ以外でも以前から国の補助事業を使い少子化対策を行

っている。子育て支援以外にも若者の経済的な事情なども考慮して子育てにおける機運の醸成が必要になってくる。今年度の7月から青年会議所であるJCと協力し「こどもまんなか応援サポーター」と「ベビーファースト運動」に取り組んでいたり、我々だけではなく市民の皆様が子育てしやすい環境を整備して子育てに取り組んでもらえるように推進している。

Q5-2 【広報】

取り組んでいるのはいいが結果が出ていないし市民にももっと周知してほしい。

A 市長

先ほどの回答になかった不妊治療にも碧南市は注力している。昨年の「市長とおしゃべり会」のなかで母子で参加した方の中に他市から不妊治療のために碧南市に来たという方もいた。

製造業が多い碧南市には男性は他市から来られるが、女性の高学歴化も影響し東京の大学に行き東京で就職、そのまま東京に出て行ってしまう方もいた。碧南市に住んでもらうために、製造業でも女性が働きやすい環境を整備していきたい。高校までの医療費の無償化も行っており行政としてできる政策は考えている。不十分な部分、改善できる部分があればぜひ意見を聞かせてほしい。

Q5-3 【施策】

婚姻数を上げるために市が結婚相談所のような取り組みができるのではないかな。

A 副市長

昔は女性と出会う機会を元気っすのイベントとして設けたりなどしたが、碧南市のみでは範囲が狭く難しかった。昨年度も碧南市の商工会議所が中小企業の会員を対象に男女の出会いの場を設けたイベントを開催している。婚活事業について民間企業とも連携して実施できないか検討している。

Q6 【環境】

ごみの焼却場を中部電力とやるという新聞記事があり、あれから月日が経っている。焼却場は西端と高浜の間のしっかりした地盤のところに共同で作ってほしい。

A 経済環境部長

以前、中部電力から碧南市と高浜市の焼却場の案をもらったが一社で採用する考えはない。ほかの民間事業者からも碧南市と高浜市の人口規模での焼却場のアイデアを募集した。今月末頃から提案のあった各企業にヒアリングし、検討委員会を開き大学教授やごみ収集業者の方と碧南市と高浜市にとってどのような焼却場が良いか検討していく。

Q7 【公共施設】

新しい設備や改修は抑えると話があったが、西端には新しい設備はほぼない。農業者コミュニティーセンターの体育館もエアコンが無い中で使っている。長期的な視点で西端にも今の設備の代わりになるものを考えているか。

A 財政課長

碧南市は同規模の自治体と比較し全国トップクラスに公共施設を有している。美術館、水族館、南部プラザ、東部プラザ、あおいパーク、市民病院など挙げただけでもこれだけの施設があり、財政が裕福でもこれだけ施設があると経費がかかる。

この場で西端の施設を建て替えるとは言及しないが、新規で作る場合は複合化した施設になる。体育館や文化会館や水族館は作ってから半世紀以上経過し老朽化で問題が発生しているが、既存の施設を複合化したい都合上、修繕しない方針に転換した。新規で西端に施設を作るとなれば複合型の施設となり、老朽化が進んだ施設は使えるまで使い、その後は解体して市の施設を減らしていく。

Q8 【公共施設】

高浜市も同じような状況になり公共施設が次々になくなった。各公共施設を利用する際に市民団体で利用すれば利用料が半額になる。市の財源が持ち直すまで補助を縮小するのはどうか。

A 財政課長

市民活動団体の碧南市民が半数を超えていれば施設使用料が半額になる。テニスコートなどは予約が取れない状況で苦情の原因となっている。現在、使用料の引き上げや団体への補助の削減を検討している。

Q9 【交通】

西端にもくるくるバスはあるが本数が少ないため改善してほしい。他市のように有料化し本数を増やしたり、デマンド型のタクシーのようなサービスの導入の検討はしていないか。

A 経済環境部長

現在、安全面を考慮し、乗客は全員着座する方針とし、また、無料でスタートした経緯などもありこの運用としている。くるくるバスは市の交通網を考え足りない部分を補っていたりタクシー業界との兼ね合いもある。要望のあるスーパーなどにバス停を設置、病院に停まる際にアナウンスできるようにしたりと改善している。実際の利用状況や利便性を確認しながら改善の参考にしている。システム全体を変えるのは大がかりになるので数年に1回などの形になる。

Q10 【広報】

若者に伝えていくための情報発信としてInstagramやYouTubeに力を入れてみて

はどうか。前市長のように市長も出演してはどうか。

A 総務部長

広報にお金をかけても若い人には見てもらえないため、碧南市ではLINEの配信に力を入れている。しかし、近隣市と比較し登録者が少ないため、登録者を増やす取り組みとしてLINEクーポン事業の実施を予定している。

A 市長

私は毎月YouTubeに出演し、広報にコラム掲載している。水族館や美術館も積極的にSNSでの発信をしている。ぜひ、公式LINEの友だち追加をお願いしたい。